

政策提言

～エシカル消費を広める教育の発展～

鳴門教育大学 学校教育学部3年

岡野俊希 小林百花 橋本七海 藤井莉子

エシカル消費に関わる教育の現状

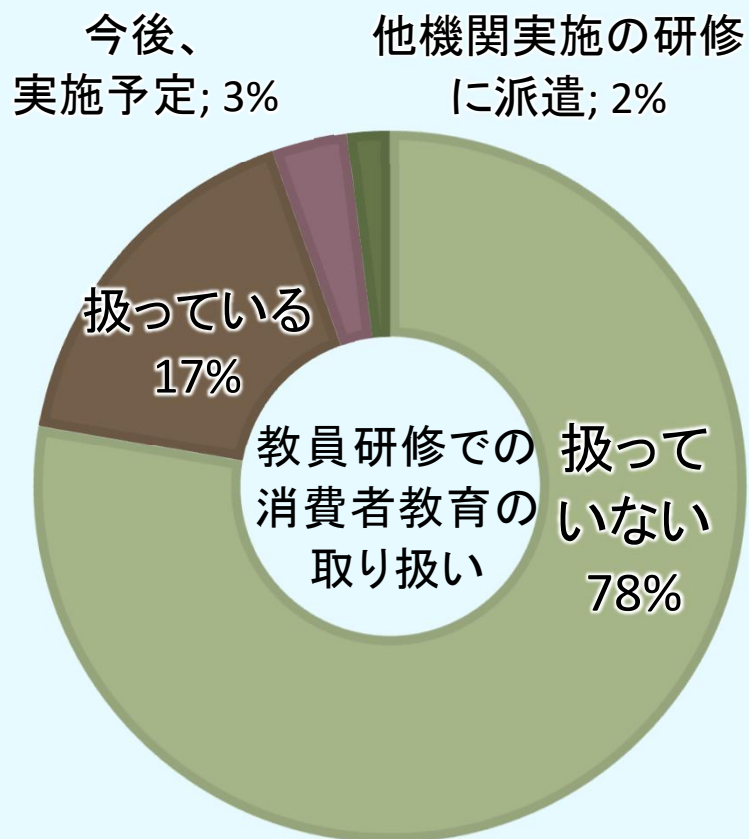
学習指導要領の教育目標への明記: 持続可能な社会の創り手を育てる

- 小学校・中学校・高等学校の各段階に
- 複数の教科で学ぶ機会がある
 - 家庭科: 持続可能な消費生活
 - 社会科: 地域や国際社会の課題
 - 理科: 自然環境の保全や資源の利用
 - 総合: テーマを設けた探究活動
 - 道徳: 環境や社会に対する責任感

教科書や教材の充実と取り組みの広がり

- 教科書への「エシカル消費」の記述
 - 中学校家庭科: 太文字で掲載
 - 高等学校家庭科: 学習項目として大きく掲載
- 教材の充実
 - 消費者庁や徳島県ウェブサイトの教材
- 先進的な実践事例や教材
 - エシカル甲子園、ESD大賞 など

エシカル消費に関わる教育の課題



学習指導要領や教科書への掲載

教育の必要性や概要を知り、興味を持つ教員が増加

教員の研修機会が不十分

教員による理解度の差

継続性や一貫性の不足

教育現場で生じている課題

児童・生徒の関心に沿わない

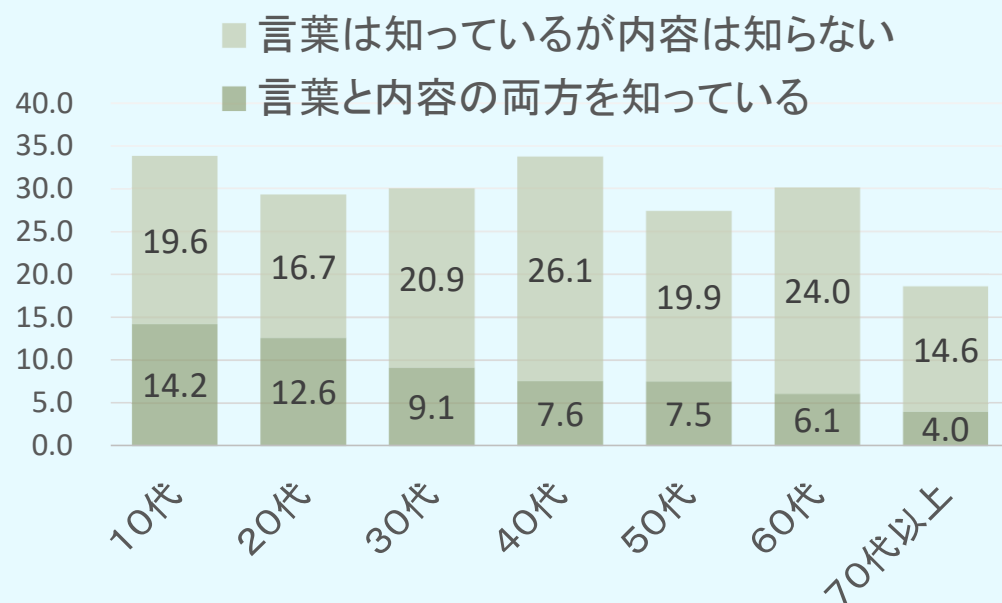
学校や地域による格差

文部科学省(2024) 令和6年度「消費者教育に関する取組状況調査」より作成

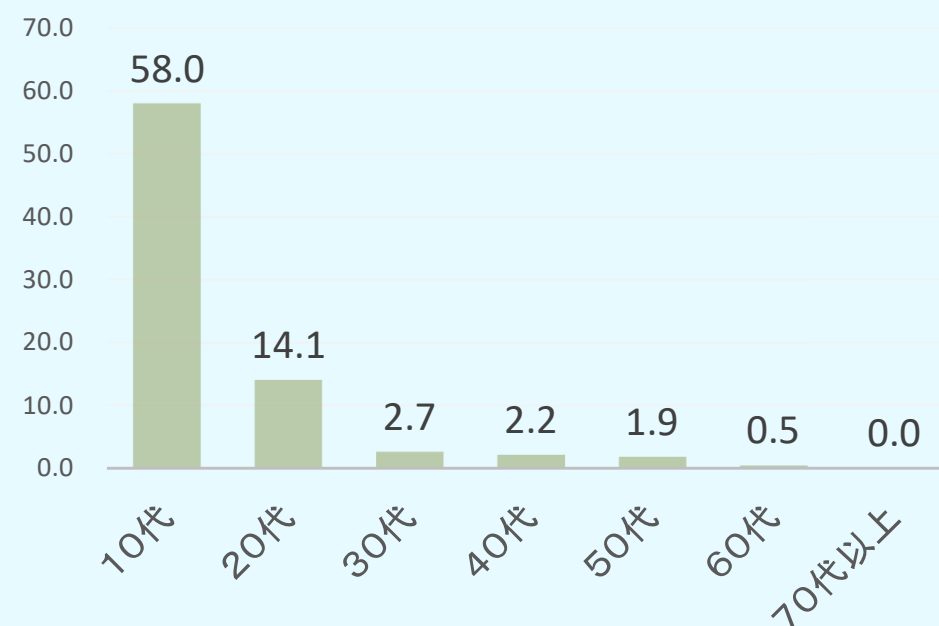
年代別 エシカル消費の認知

言葉の認知度は20-60歳代で大きく変わらないが、10代は内容まで知っている割合が高く、認知経路は「学校」の割合が圧倒的に高い

エシカル消費の認知度



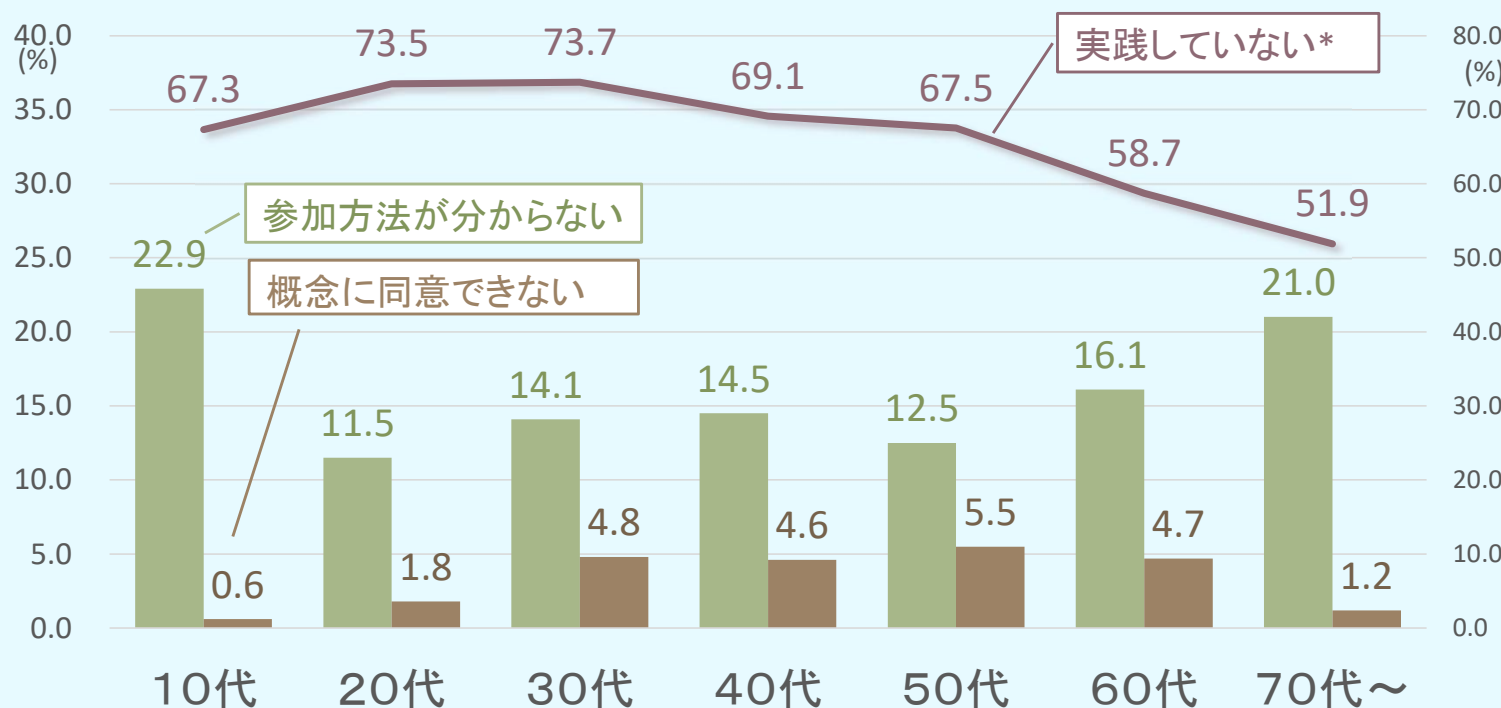
エシカル消費の認知経路: 学校



消費者庁(2024)「令和6年度消費生活意識調査(第3回)」より作成

エシカル消費を実践していない理由(年代別)

学校で学習した10代は「概念に同意できない」人の割合はとても少ないが、
「参加方法が分からない」という人の割合が高い！



*エシカル消費につながる行動を「あまり実践していない」「全く実践していない」の合計(左軸)

日常生活で
できる方法を
たくさん知る
ことが必要
(特に10代)

消費者庁(2024)「令和6年度消費生活意識調査(第3回)」より作成

学習活動の例1)

一汁一菜の献立づくりと調理実習

一汁一菜だと簡単に
エシカルな自炊ができる！

シンプルで
料理しやすい

地元産
食材の活用

食材・水・容器
のムダがない

健康的な
食事

- ◎資源の効率的な利用と環境負荷の軽減
- ◎社会や環境に配慮した選択
- ◎健康的な食生活と環境保護の両立

自炊で環境負荷を
軽減できることを
学習した後に、
実際に献立づくり
や調理実習でスキ
ルの習得を図る。

一汁一菜体験

セミナーをもとに実際に一汁一菜を作った声です。



包丁を使わなかったり、
洗い物が減ったりして
料理のハードルが
下がりました！

必要なことを効率よく
やっている感覚で、
毎日続けられそう！



一汁一菜をやってみた感想

- ・洗い物が減る → 洗剤、水の使用量が減る
- ・余り物で作れる → 食品ロスが減る
- ・地域の食材を手軽に調理して食べれる
- ・自炊に対するハードルが低くなった。

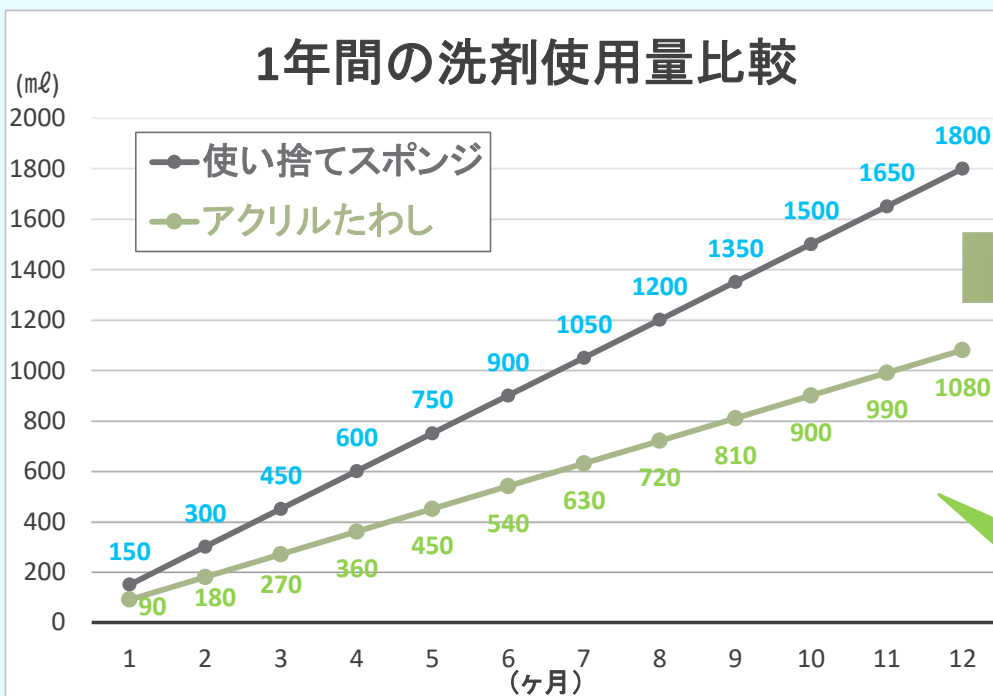
学習活動の例2)

アクリルたわしの作成と使用

- 水だけで汚れが落ちやすく、洗剤使用量を減らせる(環境保全効果)
- 家計にも優しい(節約効果)
- 環境意識を高める(教育的効果)



1年間の洗剤使用量比較



作る

- アクリルたわしを授業で作る

使用

- 家庭で実際に使用する

実感

- 洗剤量・ゴミの量(使い捨てスポンジ)が減少

継続

- アクリルたわしを使い続ける

★日々の積み重ねが大事
⇒ 試算し、可視化すると実感できる

エシカル消費を広める教育の推進に向けて

教員自らがエシカルな価値観を理解し、生徒に伝えられるようにする

- 初歩的な倫理観の理解から実践的な課題解決まで、一貫した学びができるよう、教員研修を充実させる。

社会課題（環境、貧困、人権、動物福祉など）具体的なテーマの学習内容を増やす

- 興味を持ちやすい身近でリアルな問題と結び付けた学習にする。
- 実践のスキルを習得したり、成果の見える化を図る。

地域の社会課題に関わるプロジェクトやボランティア活動を学校教育に取り入れる

- 教室の外での実践的な学びを通じて理解を深める。

オンラインやデジタル教材の活用により、場所や時間を問わず学べる環境を整備

- 地域や学校の環境による教育格差を減らすことができる。